

応用プロジェクト I

持続可能社会に向けた環境技術戦略

持続可能社会に向けた環境技術戦略

教員：高橋 淳 助教授、段 烽軍(山口研助手)

TA： 芦田哲郎 (M1)、 佐藤慶子 (M1)

- 持続可能社会に向けた各国・各企業の取り組みの調査を踏まえて次のことを学習し、持続可能社会に向けた環境技術戦略のあり方を考える。

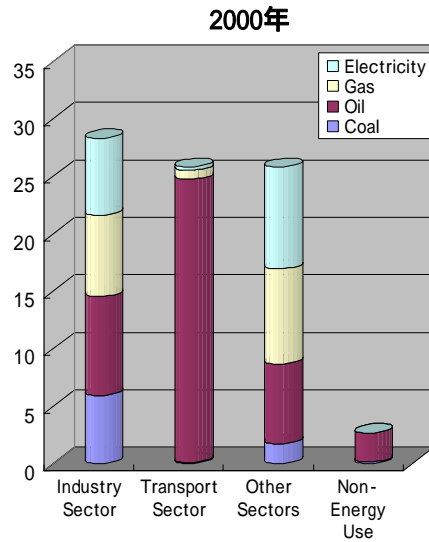
あるべきマクロエネルギーバランス

ローカルな資源(水、食糧、化石資源)セキュリティー問題

対策技術のポテンシャル評価

技術の開発と普及のシナリオ策定

調査と考察の例： 世界の部門別最終エネルギー消費割合からわかること



調査結果:

産業部門の石炭は鉄を作るため、石油はプラスチックを作るために使われている。

考察1:

鉄とプラスチックのリサイクルは(ゴミ問題だけでなく)省エネにも大いに役立つ。
技術の現状は? 問題点は?

考察2:

植物プラスチックも省エネにも大いに役立つ。
技術の現状は? 問題点は?

調査結果:

石油消費(最終消費)の約半分は運輸部門で、その80~90%が自動車によるもの。

考察

自動車の燃費向上は効果的
ではどのような技術が有望か?
人と物の輸送において、同じサービスをする別の手段は無いのか?

アドバンストコース：一人あたりのエネルギー消費量の比較から持続可能性を考える

